王　珂（女）：

２００６年９月～２０１０年６月　　湖南大学外国語学院（文学学士学位）
２００８年７月～２００９年６月　　亜細亜友之会日本語学校
２０１０年１０月～２０１１年３月　東京大学学際情報学府
２０１１年４月～　　早稲田大学大学院政治学研究科

自分の夢を求めて

大学三年に在籍した時、亜細亜友之会日本学校に来て留学生活が始まりました。

（一）　初めの日本

日本に来た当初、すべてのことにとても新鮮味を感じましたが、日本のドラマにしか出ない場面では実感はありませんでした。日本語学科の学生ではありますが、日本語を学ぶことと日本語を使うことは結局違っていて、教科書の知識は非常に堅苦しいとしか言えません。アルバイト許可書が下りた時、皆が電話したりして仕事を探してみましたが、ほとんど拒否されてしまいます。皆の日本語は先生及び本人の努力で、ますます上手になり、日本人との交流もスムーズにいくようになりました。亜細亜友之会日本語学校のコースの設置はきめ細かく、聞く、話す、読む、書く面から訓練できるようになります。また、一般コースを受講する学生には日本語能力試験とビジネス日本語試験の対策講座を設置してあるため、合格率は格段に上がりました。学校側は学内授業だけではなく、ボランテイア団体が主催する「日本語教室」に先生が直接連れて行き、責任者にお願いしたことも今でも覚えています。

（二）　大学院の申請

留学半年にかかった時、大学を卒業したら引き続き大学院へ進学したい気持ちになりました。しかし、困惑していました。なぜかというと語学を専門とした学生は当然語学関係の専門を研究すれば優しい面がありますが、メディア関係の大学院に進学することは一種の冒険だと言わざるを得ません。自分が専門科目を学んでいなかったのですが、面接官に如何に自分が学ぶ準備をし、その決心ができたかどうかを説明できるかに関わっています。志賀先生と丁先生は、私の大学選びから、研究計画書の作成、出願等一連の申請手続きにおいて、助言したり、指導したりしてくれました。自分の目標が確定してから、研究計画書の作成に取り掛かりました。大学院申請の中で研究計画書は一番大事な書類です。それは面接官がそれを見ながら専門知識の有無を考査し、研究に適しているかどうかを確認しているからです。研究計画書を作成する中で、多くの留学シンポジウム雑誌、研究計画書の範例、専門書（中国文、日本文及び英文）を閲覧し、また新聞学科のコースに入って授業を受けたりして、自分の研究計画書を完成させました。一般的に、留学生においては、まず半年か一年間の研究生（中国の研究生と違って、＜予科生＞の概念に近い）になって、指導教官の授業を受講したり、指導を受けたりして、大学院修士（中国では碩士と称す）試験に参加するわけです。多くの大学では、研究生に申請する際、まず指導教員の内諾をもらってから出願します。ただし、大学院試験に直接参加することもできます。しかし、難易度が高いところもあります。今回の申請を通して、一部の大学のある専攻では内諾が要らなく直接受験できることがわかりました。例えば、北海道大学国際メディア・観光学科、東京大学学際情報学府等。私は研究生内諾が要らない大学を選択しましたが、指導教員との交流が十分ではない恐れもあります。また、私は別の専門を申請するため、大きなプレッシャーがかかりましたが、容易な道を選んだのではなく難度のある道を選択したからです。でも自分の選択に後悔したことはありません。多くの人から、成功者は一握りなので現実的に考えなさいとよく言われますが、人間というのは夢を見るべきで、夢を持つことこそ成功への第一歩を踏み出すことができると思います。夢があれば、まず如何にそれを実現するかを考え、その夢に向けて果敢に行動することです。